

特集1 (Special feature part 1)

手書き A3 課題を携えた森の妖精，服部次郎先生

Forest fairy with handwriting A3 paper assignment,
Professor Jiro HATTORI

野崎 健太郎*
NOZAKI, Kentaro*

キーワード：森の妖精，手書き A3 課題，臨床心理，自然

Key words：forest fairy, handwriting A3 paper assignment, clinical psychology, nature

2010年（平成22年）の秋，磯部錦司学兄（椋山女学園大学教育学部教授）と私は途方にくれていた。定年退職を迎える田中俊雄教授（社会福祉）の後任人事が暗礁に乗り上げていたからである。そのような私たちを前に，我が幼児教育学の師である大森隆子先生（現在，名誉教授）は一言，「私が良い方を紹介します！」と，その剛腕を感じさせない満面の笑顔とともにおっしゃった。果たして4月に私たちの前に現れたのは，瘦身巻き毛で大きな瞳を持ち英語を話す“森の妖精”であった。

服部先生は，本紀要に掲載された略歴と随想にある通り，名古屋大学文学部哲学科で心理学を専攻した後，英語科教員への夢を断念し，心理専門職として愛知県に奉職されている。心理臨床家としてのご活躍ぶりは随想に控えめに書かれているが，愛知学園での困難を抱えた子どもたちとの信頼感の育み，児童相談所という極めて困難な現場で子どもたちを支援する実践者への温かな眼差しに先生の仕事観が良く表れている。このような子ども，福祉そして社会への向き合い方は，先生を必然として保育者養成の現場へと導いたのであろうと思われる。

さて，先に先生を森の妖精と書いた。これは，その温顔と柔らかな物腰をして学生たちが呼びならわしている呼称であるが，研究室を訪れると，さらに強く印象付けられる。椅子は太い丸太の切り株であり，棚には森で集められたであろう木の実や葉が飾られている。大学教員の研究室の多くは，研究資料や教材が雑多に置かれた生活感に満ちた空間，もしくは無機的までに整理整頓された空間に大別されるが，野山の産物や写真に囲まれた先生の研究室は，有機的であり，そこだけに爽やかな風が吹く場である。

もう1つ，先生を印象付けるものと言えば，“手書き A3 課題”である。この教育的信念については，本紀要に連載されている実践報告に詳しいが，人が二本足で立ち，手を使い道具を生み出すことで歴史を築いてきたことを思えば，近年の便利な機器普及の代償としての人間性喪失に対する先生の危機感の表れと考えられる。この課

題に対する学生たちの評価は賛否両論であり、先生はそれを自覚の上で、自らを“A3の男”と称し、やや自虐的に語られることもある。しかし、特徴のない教員である筆者からすれば、手書き A3課題という代表作を持つ姿を羨ましく感じてしまうのも事実である。

最後になるが、服部先生が、椋山女学園大学教育学部で果たされた大きな仕事は次の3点であろう。1点目は、学生に配慮した保育実習 IB（施設）の充実である。まずは、単独での実習は止め、3～4人の仲の良い学生で班を組ませて送り出したことである。学生は孤独に陥ることなく、苦しい体験も仲間との協力で乗り切れるようになった。これは施設実習に対する学生の不安感を相当に払拭した改革である。続いて愛知県職員時代の人脈を活用し、厳選された質の高い施設で実習が行えるようになったことである。その結果、施設実習を経た学生たちから、「障害児（者）の印象が大きく改善した。」「施設でも保育士が活躍している。私も働きたい。」との声を良く聞くようになった。

2点目は、福祉施設への就職を希望する学生への支援が充実したことである。福祉施設は保育園や幼稚園、小学校以上に多様性に富んだ場である。したがって、学生と施設との間で、福祉観、勤務条件等のすり合わせを慎重に行うことが求められる。この時に施設を熟知し、学生に対し親身になって助言できる服部先生の存在は大きい。

3点目は毎年多くの卒業研究指導学生を受け入れ、社会に送り出したことである。先生の研究室は毎年人気で、悩みながらも選抜した定員の10名を手塩にかけて指導されていた。教員にとっては手間のかかる浜名湖への卒業研究合宿や恒例となった大学祭への出店は、研究室の結束を高め、学生たちに「椋山の教育学部に入って良かった。」、との思いを抱かせていると感じる。学生たちの母校愛を育むことは大学の存続と繁栄に決定的に重要である。服部先生は、その最も効果的な場が卒業研究にあることを良く理解されていた。個人的には、先生の最も重要な功績は、この卒業研究指導にあると確信している。

服部先生は、2020年3月に定年を迎え、「幸福な引退（Happy retirement）」となるが、教育学部は、今しばらく、そのお力をお借りしたいところである。森の妖精が、手書き A3課題を抱えて自然に帰るには、まだ間がありそうである。